

参考資料

内部質保証に係る点検状況について

令和6年2月

滋賀大学

目 次

I. 点検・評価項目（新規項目）の点検結果（該当部局のみ）	
1. 教育・学生支援機構	1
2. 産学公連携推進機構	5
3. 機構以外の全学委員会等	6
II. 昨年度改善計画の進捗状況（該当部局のみ）	
1. 教育・学生支援機構	
ア. 全学担当分	7
イ. 経済学部	8
ウ. データサイエンス学部	12
エ. データサイエンス研究科	15
2. 機構以外の全学委員会等	18

別表…滋賀大学における内部質保証に関する体制

内部質保証に係る点検について

「内部質保証」とは、大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために、自らが行う教育研究等の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上に取り組むことを指します。

本学では、平成31年4月1日付で「国立大学法人滋賀大学における内部質保証方針」を定め、大学評価基準(※1)に準じた点検項目に基づく自己点検を毎年度実施しています。

令和4年度においては、より質を向上させるための評価項目の追加を行うとともに、令和3年度に受審した大学機関別認証評価(※2)を踏まえ、過去の改善計画の進捗状況（フォローアップ）を中心に点検を実施しました。

※1…大学の学位課程における教育活動を中心として、大学設置基準等の法令適合性を含めて、大学として適合していることが必要と考える内容を示したもの

※2…学校教育法に基づき、教育研究等の状況が大学評価基準に適合しているか否かを認定する評価制度（7年以内ごとに受審）

I. 点検・評価項目（新規項目）の点検結果

1. 国立大学法人滋賀大学自己点検・評価における点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）の点検結果

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	その他特記事項
③	学位授与方針が具体的かつ明確であること	③1	学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与方針において、以下の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。 ・学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズ ・学生の学習の目標となっていること ・「何が出来るようになるか」に力点を置き、どのような学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかが具体的に示されていること 	学部・研究科	○			
④	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	④1	教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程方針において、点検・評価項目（詳細）本文の①から③の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。 	学部・研究科	○			
		④2	教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成及び実施の内容が、学位授与方針に定める獲得が期待される能力を学生が獲得できるものとなっているかを確認できるだけの整合性を有していることを確認する。 	学部・研究科	○			
⑤	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	⑤1	教育課程の編成が、体系的性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の体系的性については、カリキュラム・マップ、コース・ツリーや履修モデル、コース・ナンバリング等を用いて確認する。 ・教養教育及び専門教育のバランス、必修科目・選択科目等の配当等、教育課程方針に基づいて、授業科目が配置され、教育課程の体系的性が確保されていることを確認する。 	学部・研究科	○			
		⑤2	授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・一単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、科目の内容が設定されていることを確認する。 ※次の場合は、科目の内容がふさわしい水準になっているものとする。 ・信頼できる分野別第三者評価機関によって保証されている場合 ・日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが機関別内部質保証において保証されている場合 ・シラバスを検証することによって、45時間の学習時間が必要であることを確認できる場合 ・自己点検・評価において水準に関する検証を大学等の目的に則したその他の方法によって実施し、検証されている場合 	学部・研究科	○			
		⑤3	他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること	<ul style="list-style-type: none"> ・他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定についての規定が、法令に従い定められていることを確認する。 	学部・研究科	○			

大項目 NO	点検・評価項目（大項目）	詳細 NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	その他特記事項
⑥	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	⑥ 1	1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・1年間の授業を行う期間が、定期試験等の期間を含め、35週確保されていることを確認する。	学部・研究科	○			
		⑥ 2	各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	・各授業科目が、10週又は15週にわたる授業期間を単位として行われていることを確認する。 ・10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要及び10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていることを確認する。	学部・研究科	○			
		⑥ 3	適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。 ・芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されていることを確認する。 ・すべてのシラバスが、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。 ・授業形態（講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス）、学習指導法（少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等）の工夫を積極的に行っている場合は、その状況についても確認する。	学部・研究科	○			
		⑥ 4	教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	・教育上主要と認める授業科目の定義を確認する。 ・教育上主要と認める授業科目への専任の教授又は准教授の配置状況（該当する授業科目数、そのうち専任の教授又は准教授が担当する科目数、専任の講師が担当する科目数）を確認する。 ※実際に授業を担当しない場合でも、専任の教授又は准教授が授業の内容、実施、成績に関して責任を持っている場合は、その授業科目を分析項目の状況に準ずるものとして分析することが可能 ※適切な科目担当となっていることの最低限の担保として、大学院についても分析	学部・研究科	○			
⑧	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	⑧ 1	成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	・成績評価基準については、評語（A、B、C等）を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定めたものを確認する。 ※成績評価基準は、教育課程方針に明記されていることも想定される。 ※学習成果の評価の方針は別途確認。	学部・研究科	○			
		⑧ 2	成績評価基準を学生に周知していること	・学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。	学部・研究科	○			

大項目 NO	点検・評価項目（大項目）	詳細 NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	その他特記事項
⑨	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること	⑨-1	大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること	・大学が定める卒業（修了）要件が組織的に策定され、大学設置基準等が定める要件と整合的であることを確認する。 ・修業年限の特例措置を講じている場合は、法令に従い適切に規定を整備していることを確認する。	学部・研究科	○			
		⑨-3	策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること	・卒業（修了）要件を、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。	学部・研究科	○			
⑩	「滋賀大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況が適切な水準であること	⑩-1	教育プログラムの実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況が数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱及び同細目で定められた水準を満たすこと（リテラシーレベル）	・教育プログラムの履修・修得状況、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認する。 ・シラバスとモデルカリキュラムの対応を確認する。 ・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度を確認する。また、教育プログラムの学修成果や他の学生の推奨度について確認する。 ・教育プログラムの修了者の進路・活躍状況、産業界等外部からの評価を確認する。	教育・学生支援機構教育推進部門会議	○			令和4年度入学生より、全学部学生必修とした。就職活動などで、数理・データサイエンス・AIの基礎的な能力を身に付けたことを企業等へ証明するものとして、オープンバッジ（電子修了証）発行の取り組みを開始した。
		⑩-2	教育プログラムの実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況が数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱及び同細目で定められた水準を満たすこと（応用基礎レベル）	・教育プログラムの履修・修得状況、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認する。 ・シラバスとモデルカリキュラムの対応を確認する。 ・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度を確認する。また、教育プログラムの学修成果や他の学生の推奨度について確認する。 ・教育プログラムの修了者の進路・活躍状況、産業界等外部からの評価を確認する。	教育・学生支援機構教育推進部門会議	○			令和4年8月に全学部のプログラムが応用基礎レベルに認定、データサイエンス学部のプログラムについては応用基礎レベル＋（プラス）に選定されており、履修者数は着実に増加している。令和5年度中に初の応用基礎レベル修了者がでる見込みである。
⑫	教職課程の自己点検・評価に関すること	⑫-1	本学の教職課程が教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画（教育職員免許法施行規則第22条の6第1号）に照らして成果をあげていること	・教育理念・学修目標の策定状況、見直し状況を確認する。 ・授業科目・教育課程の編成の実施状況を確認する。 ・学修成果の把握・可視化の状況を確認する。 ・教職員の配置状況、教員の業績、FD・SDの実施状況を確認する。 ・学校教育法施行規則や教育職員免許法施行規則に定められた内容をはじめとする情報公表の状況を確認する。 ・教職指導（学生の受け入れ・学生支援）の実施状況を確認する。 ・教育委員会をはじめとする学外公表機関との連携・交流状況を確認する。	教育・学生支援機構教育推進部門会議	○			

大項目 NO	点検・評価項目（大項目）	詳細 NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	その他特記事項
⑬	「データサイエンス×経済・教育（DS×E2）高度専門人材養成プログラム」の実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況が適切な水準であること	⑬-1	プログラムの実施状況及び改善・向上に向けた取り組みの実施状況がデジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業申請書に記載した内容に照らして成果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> 各年度の実施計画の達成・進捗状況を確認する。 事業実施における運営体制・自己評価の実施体制を確認する。 取組の継続・事業成果の普及に関する実施状況を確認する。 デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業委員会（日本学術振興会）より付された留意事項及び参考意見への対応状況を確認する。 達成目標、アウトプット・アウトカムと評価指標の達成状況（プログラムの修了者の進路・活躍状況、産業界等外部からの評価含む）を確認する。 	教育・学生支援機構教育推進部門会議 教育・学生支援機構データサイエンス×経済・教育（DS×E2）高度専門人材養成プログラム推進部会	△	各点検項目の平均は3.18（1～5の5段階評価）であり、大学院経営分析学演習室をはじめとする施設設備、経済学研究科改組に係る文科省申請作業、教育学研究科プログラム開始にむけた教育委員会との協議などについて順調に進捗はしているものの、各科目内容の具体化、学内事業実施体制の整備、外部評価体制の構築等についてさらなる進捗を図る。	令和6年度の経済学研究科・教育学研究科両プログラム開始に向けて、教材開発等を進めるとともに、特任教員採用等の学内における事業実施体制の整備を進める。また、経済学研究科・教育学研究科それぞれで外部評価体制の構築を進める。	
⑭	リベラルアーツ・STEAM教育に関する取り組みの実施状況が適切な水準であること	⑭-1	大学等の目的及び学位授与方針に則して、リベラルアーツ・STEAM教育に係る方針を作成し、カリキュラム研究・開発・普及に関する取り組みを実施していること	<ul style="list-style-type: none"> リベラルアーツ・STEAM教育に係る方針の作成状況、計画の進捗状況を確認する。 授業科目の開設状況を確認する。 学生アンケート等により、教育プログラムの学修成果について確認する。 リベラルアーツ・STEAM教育の普及に関する取り組みの実施状況を確認する。 	教育・学生支援機構リベラルアーツ・STEAM教育研究センター会議	△	令和4年度にリベラルアーツ教育に改革したばかりであり、アンケート収集、学修成果の確認は今後の課題である。また、リベラルアーツ・STEAM教育の推進に係る方針を作成したところであるが、今後クリエイティブ・スタディーズ分野を中心とした科目開発を実施する。	学生アンケートの収集、学修成果の確認に向け、アンケート収集方法等の検討を進める。クリエイティブ・スタディーズ分野における科目開発（分野横断型授業）の検討を進める。	

2. 国立大学法人滋賀大学自己点検・評価における点検・評価項目（産学公連携推進機構担当）の点検結果

大項目 NO	点検・評価項目（大項目）	詳細 NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	担当部門等	点検結果	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	その他特記事項
①	大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。	①-1	大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。	○ 計画が、地域貢献活動に関する目的を達成できるものであるか、地域貢献活動に関する基本方針等を明らかにした上で分析。 ○ 大学内や学外の関係者等に対して、ウェブサイトへの掲載等の方法により、適切に周知や広く公表しているかについて分析。	・社会連携部門 ・地域連携教育推進部門	○			
		①-2	計画に基づいた活動が適切に実施されているか。	○ 大学の目的を達成する上での活動の実施体制、計画に基づいた活動の内容・方法及び活動状況を分析。 ○ 教育サービス活動・学習機会の提供については、例えば、公開講座、公開授業、各種の研修やセミナー、小中高生向け講座、史料館等の公開、図書館の開放の実施状況から分析。 ○ 産業の振興への寄与に関する活動としては、例えば、企業との共同による研究や企業への技術指導・助言、その他の実施状況から分析。特にデータサイエンス分野においては、企業内人材育成、社会人教育について分析。 ○ 地域社会づくりへの参画については、例えば、地方公共団体等との協定締結、審議会への参加、政策提言、共催によるイベント等の実施状況から分析。	・社会連携部門 ・地域連携教育推進部門	○			
		①-3	活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。	○ 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動が有する目的や計画をどの程度達成したかについて分析。	・社会連携部門 ・地域連携教育推進部門	○			

3～5. 情報機構、研究推進機構、国際交流機構

令和5年度報告項目なし

6. 国立大学法人滋賀大学自己点検・評価における点検・評価項目（機構以外の全学委員会等）の点検結果

大項目 NO	点検・評価項目 (大項目)	詳細 NO	点検・評価項目 (詳細)	分析手順	内部質保証実施主体			点検結果	点検結果が△または×の 場合、その理由	改善計画	その他特記事項
					担当理事	担当組織	担当課				
⑥	法令等が公表を求める事項を公表していること	⑥-1	法令等が公表を求める事項を公表していること	・大学等の目的、学位授与方針、教育課程方針及び学生受入方針、その他法令が定める教育研究活動等についての情報を社会一般に対し、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により広く公表していることを確認する。	理事 (総務・企画)		広報課	△	一部教員の学位及び業績について公表されていない。	教員の学位及び業績について公表されるように教員情報管理システムへの入力を促す。	教育情報について、いずれが法令で求める情報であるのか、わかりやすい形で公表した。 https://www.shiga-u.ac.jp/disclosure/public-education/
⑧	学生受入方針が明確に定められていること	⑧-1	学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること	・学生受入方針において、以下の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。 ・求める学生像については、入学前に学習しておくことが期待される内容 ・入学者選抜の基本方針については、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか ・特に学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素（（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」についてどのような成果を求めるか）	副学長 (入試)	入学試験委員会	入試課	○			

II. 昨年度改善計画の進捗状況

1. ア. 点検・評価項目(教育・学生支援機構担当)に係る昨年度(R4)改善計画の進捗状況 (全学担当分)

大項目 NO	点検・評価項目 (大項目)	詳細 NO	点検・評価項目 (詳細)	分析手順	点検結果が△または×の 場合、その理由	改善計画	確認 年度	進捗状況	進捗状況報告
⑫	教職課程の自己点検・評価に関する こと	⑫ 1	<p>本学の教職課程が教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画(教育職員免許法施行規則第22条の6第1号)に照らして成果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・学修目標の策定状況、見直し状況を確認する。 ・授業科目・教育課程の編成の実施状況を確認する。 ・学修成果の把握・可視化の状況を確認する。 ・教職員の配置状況、教員の業績、FD・SDの実施状況を確認する。 ・学校教育法施行規則や教育職員免許法施行規則に定められた内容をはじめとする情報公表の状況を確認する。 ・教職指導(学生の受け入れ・学生支援)の実施状況を確認する。 ・教育委員会をはじめとする学外公表機関との連携・交流状況を確認する。 	<p>学校教育法施行規則や教育職員免許法施行規則に定められた内容について情報公表しているところであるが、教職課程の自己点検ガイドラインに沿った内容についての情報公表ができていないため、今後よりわかりやすい形で公表することが望ましい。</p>	<p>令和4年度中を目途に、大学ホームページにて教職課程の自己点検・評価に係る点検・評価結果の公表箇所を設け、学外に広く公表する。</p>	R 4	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>大学ホームページにて教職課程の自己点検・評価に係る点検・評価結果を公表した。</p>

イ.点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（経済学部）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
④	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	④1	教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・教育課程方針において、点検・評価項目（詳細）本文の①から③の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。	学習成果の評価の方針が明確に示されていない。	教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）を改正し、学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	体制整備委員会においてカリキュラム・ポリシーの見直しを進めた。まだポリシーそのものの改正には至っていないが、カリキュラム・マップを改正することで、ディプロマ・ポリシーとの対応関係等の明示は実現している。
					カリキュラム・マップの修正により、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性は明確となったが、学習成果の評価の方針は示されていないままである。	カリキュラム・ポリシーを修正するとともに、マップも含めた表示・公表の仕方について見直す。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	体制整備委員会においてカリキュラム・ポリシーを修正するとともにカリキュラム・マップの表示・公表の仕方について見直した。また、成績評価のガイドラインを策定し成績評価の方針を明確かつ具体的に明示した。
					学習成果の評価の方針が明示されていること及びディプロマ・ポリシーとの整合性がとれていることについて確認が必要である。	学習成果の評価の方針が明示されていること及びディプロマ・ポリシーとの整合性がとれていることについて、学部教授会において確認を実施し、必要に応じて改正を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日の教授会において、学修成果の評価方針を明示し、ディプロマ・ポリシーとの整合性を持たせるため、教育課程方針を改定した。
⑤	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	⑤2	授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 一単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、科目の内容が設定されていることを確認する。※次の場合は、科目の内容がふさわしい水準になっているものとする。 信頼できる分野別第三者評価機関によって保証されている場合 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが機関別内部質保証において保証されている場合 シラバスを検証することによって、45時間の学習時間が必要であることを確認できる場合 自己点検・評価において水準に関する検証を大学等の目的に則したその他の方法によって実施し、検証されている場合 	シラバスの記載内容によって、45時間の学習時間が必要であることを確認することができない授業科目がみられるため。	⑥-3のシラバスの改善計画のうちに、授業外学習を含めた45時間の学習内容が示されるよう改善することを盛り込む。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	教育学習支援委員会においてシラバスの記載内容を全てチェックし、不十分な科目については学務委員会を通じて教員に修正を求めた。その結果、大部分の科目について記載内容が改善されている。
					ごく少数ながら、シラバスにおいて授業外学習について記載されていない科目がみられる。	シラバスに、授業外学習を含めた45時間の学習内容が記載されるよう徹底する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	⑥-3（分析項目6-4-3）に記載するとおり、シラバスの点検・改善のサイクルを確立し、シラバス作成要領の中で、「事前学習・事後学習など授業時間外の学習」の項目に授業外学習を含めた45時間の学習内容を保障する記載がなされるように、特に注意喚起した。その上で、次年度分事前点検においてそれが不十分である科目については、個別に改善要請を行った。
		⑥2	各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> 各授業科目が、10週又は15週にわたる授業期間を単位として行われていることを確認する。 10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要及び10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていることを確認する。 	集中講義等の、10週又は15週と異なる授業期間を設定している科目の中に、シラバスの授業計画の記載が不十分なものが残っている。	集中講義等での授業計画の記載方法について指針を明確にし、教育効果が確認できる内容とすることを徹底する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	⑥-3（分析項目6-4-3）に記載するとおり、シラバスの点検・改善のサイクルを確立し、シラバス作成要領の中で、「集中講義も含めて」「授業計画」の項目の記載が15週に相当する授業内容を行われていることを明確に示す記載となるように、特に注意喚起した。その上で、次年度分事前点検においてそれが不十分である科目については、個別に改善要請を行った。
					シラバスを根拠資料に含めた場合、15回からなることを明記していない科目が複数ある（99/779科目。99科目の内訳は、経済学部開講科目77科目+全学共通教養科目22科目）ことを指摘せざるを得ない。	15回からなることを明記するように教員への依頼を再度行う。90%以上の科目で明記されるように努力する（R3.11現在87%）。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年度のシラバス点検において、「修正必要」との指摘を受けた箇所が修正済みかどうかを確認する令和4年度のシラバス点検を9月に実施した。

大項目NO	点検・評価項目(大項目)	詳細NO	点検・評価項目(詳細)	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
⑥	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	③	適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること		シラバスを根拠資料に含めた場合、15回からなることを明記していない科目が複数ある(99/779科目。99科目の内訳は、経済学部開講科目77科目+全学共通教養科目22科目)ことを指摘せざるを得ない。 ・「1回目、2回目、3回目以降」「〇月～〇月」というような緩やかな記載はあるものが多い。 ・多くが専門演習であるため、15回に分けた記載は困難な場合があるかもしれない。ただ卒業指導に関して「個人指導」「最低3回」などの記載はやや問題か。	15回からなることを明記するように教員への依頼を再度行う。90%以上の科目で明記されるように努力する(R3.11現在87%)。	R4	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	15回からなることを明記するように令和4年度にシラバス改修を行い、シラバス入力画面で毎回毎に分割して入力・表示する形に変更した。また、令和5年3月にシラバスの点検を行い、シラバスの未入力の科目について、入力するように連絡し、その結果、93.8%(710/757科目)のシラバス入力となされ、公開している。
					全科目について、シラバスの項目がすべて記載され学生にわかりやすく伝えられているとはいえないため。	シラバスの内容を改善するためのワーキンググループを立ち上げ、シラバスの項目の点検を行う。シラバスの項目には、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準のほか、準備学習などについても記載されているが、受講学生に、より自主的に予復習等の学習が必要とされることを明示する。 掲載項目をチェックし、全項目について未記入であることが認められた教員に対しては、正しいシラバスの記載を促すチェック機能や体制を整える。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	教育学習支援委員会においてシラバスの記載内容を全てチェックし、不十分な科目・項目については学務委員会を通じて教員に修正を求めた。その結果、大部分の科目・項目について記載内容が改善されている。
				・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。 ・芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されていることを確認する。 ・すべてのシラバスが、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。 ・授業形態(講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス)、学習指導法(少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等)の工夫を積極的に行っている場合は、その状況についても確認する。	シラバスの改善方針に従って多くの科目で十分な記述がなされているが、なお一部の項目について記述がない科目が存在する。	シラバスの全項目について、より分かりやすい記述に改善を図るよう徹底する。 なお、オンライン方式の導入や対面授業との組み合わせなど、授業形態の多様化が今後も進むことが予想されることから、シラバスでの新たな表示欄の設置など表示方法の改善について検討を開始する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	・シラバスについては、(1) 当年分シラバスの事後点検、(2) 点検結果をふまえた改善提案、(3) 可能な改善項目を採り入れたシラバス作成要領の提示、(4) 作成要領に基づく各教員の(次年度分)シラバス作成、(5) 次年度分シラバスの事前点検と個別の改善要請、というサイクルを整え、全体を学務委員会が主導し、(1)(2)(5)については学務委員会と教育学習支援委員会が合同で行うこととした。このサイクルの下で、事前・事後の点検において、点検用チェックシートを用意して、シラバスの主要項目の記述に欠けがないこと、わかりやすい記述となっていることを確認し、特に(5)の事前点検において、記述漏れや不十分な記述等がある場合には個別に担当教員に改善要請をすることで、シラバスの改善を行っている。 ・また、(2)にはシラバスの表示方法の改善に関する視点も含め、予算的な制約の下で可能且つ必要なものの実現を図ることとしている。

大項目NO	点検・評価項目(大項目)	詳細NO	点検・評価項目(詳細)	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
					シラバスの適切性をチェックする体制が整備されていることの確認が必要である。	シラバスのチェックを担当する彦根地区教育学習支援委員会の規程について、毎学期シラバスの組織的な点検を実施することを具体的に記載する。シラバスの組織的な確認手順書(チェックリストなど)を作成する。以上2点について、教授会において確認を実施し、対応を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	彦根地区教育学習支援委員会及び経済学部学務・カリキュラム編成委員会がシラバスの点検を行い、結果は各教員にフィードバックされた。また、シラバス作成要領に過去の修正事例を反映させる等、改善に向けた取り組みを行った。さらに彦根地区教育学習支援委員会規程にシラバスの点検を任務として明記し、チェック体制の継続的・組織的な運営を担保した。
		⑥4	教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目の定義を確認する。 ・教育上主要と認める授業科目への専任の教授又は准教授の配置状況(該当する授業科目数、そのうち専任の教授又は准教授が担当する科目数、専任の講師が担当する科目数)を確認する。 ※実際に授業を担当しない場合でも、専任の教授又は准教授が授業の内容、実施、成績に関して責任を持っている場合は、その授業科目を分析項目の状況に準ずるものとして分析することが可能 	主要科目が原則として専任の教授・准教授によって担当されていることは確認されたが、非常勤講師が担当するコア科目について、最近の実施方法等の変更を踏まえ、専任の教員が授業の内容、実施、成績に関して責任を持っていることを検証できる体制となっているかの確認が必要である。	コア科目の実施体制を点検し、学習内容や成績評価等について、組織的に取り組み実施される科目であるという科目の趣旨が徹底していることを検証しうるかどうか確認する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	シラバスの検討から、非常勤講師が担当しているコア科目についても、専任教員が授業内容等に責任を持っていることは確認された。ただ、そうした組織的な取り組みが容易に検証しうる実施体制とはなっていないので、なお整備が必要である。
			教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目の定義を確認する。 ・教育上主要と認める授業科目への専任の教授又は准教授の配置状況(該当する授業科目数、そのうち専任の教授又は准教授が担当する科目数、専任の講師が担当する科目数)を確認する。 ※実際に授業を担当しない場合でも、専任の教授又は准教授が授業の内容、実施、成績に関して責任を持っている場合は、その授業科目を分析項目の状況に準ずるものとして分析することが可能 ※適切な科目担当となっていることの最低限の担保として、大学院についても分析 	昨年度指摘のあった「非常勤講師が担当するコア科目」については、シラバスから、授業計画、テキスト、成績評価の方法などが非常勤講師と常勤の教員との間で一致していることが確認できる。しかしながら、指摘の中の「専任の教員が授業の内容、実施、成績に関して責任を持っていることを検証できる体制となっているかの確認が必要」という点については、「検証できる体制」が組み込まれていることまでをシラバスから確認することは難しい。	コア科目について、「主任」制度の導入など、授業の内容、成績等についての責任のあり方をより明確なものとする実施体制に改善する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	コア科目について、これまで各科目で行われてきた取組みを明確化するため、「主任」制度を導入し、授業の内容、成績等について主任が調整・確認を行う実施体制を構築した。
	⑦	⑦2	学生のニーズに応える学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	・オフィスアワーの設定、ネットワークを活用した学習相談等、各大学固有の事情等に応じて、学習相談、助言等の学習支援が行われているかについて確認する。	各種の学習相談の利用実態の把握が不十分である。	オフィスアワーやメール、ネットを活用した学習相談の内容、件数等の実態について、教員への調査、学生アンケートの分析等によって確認する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	オフィスアワーやメール、ネットを活用した学習相談の令和2年度の実態について、教員への調査を行い確認した【3月16日現在未実施。3月末までに実施予定】。また、令和2年度卒業予定者アンケートの関連する質問項目の回答状況を確認した。
		⑧1	成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	・成績評価基準については、評語(A、B、C等)を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定められたものを確認する。 ※成績評価基準は、教育課程方針に明記されていることも想定される。 ※学習成果の評価の方針は別途確認。	大学として定めた評価基準は、「秀」が「到達目標を達成し、極めて優秀な成績を修めている」といったように、到達目標を考慮した判断の基準としては抽象的すぎると思われる。	学部・学科の学位授与・教育課程方針に則した、より具体的な判断基準を整備する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	教育・学生支援機構から「滋賀大学における成績評価のガイドライン」が示されたことにより、組織的な基準は明確となった。だが、このガイドラインを基に、学位授与方針・教育課程方針に応じた学部としての基準をさらに明確にする作業がなお必要である。
			⑧1	成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	・成績評価基準については、評語(A、B、C等)を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定められたものを確認する。 ※成績評価基準は、教育課程方針に明記されていることも想定される。 ※学習成果の評価の方針は別途確認。	教育・学生支援機構から「滋賀大学における成績評価のガイドライン」は示されたが、学位授与方針・教育課程方針に応じた学部としての基準をさらに明確にする必要がある。	学部においてガイドラインを策定した上で、教育学習支援委員会において、学部の教育課程の特性に応じた具体的な成績評価基準の設定に際し考慮すべき点を抽出し、学務委員会においてそれをシラバス作成要領に反映させる。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()
		⑧2	成績評価基準を学生に周知していること	・学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。	学修naviによるGPA制度の説明だけでは、学生への周知は不十分である。	⑧-1(分析項目6-6-1)のガイドラインの策定と合わせて、学生への周知方法についてもより適切なものに改善する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	学部における成績評価のガイドラインを、ホームページへの掲載や「学修navi」への掲載を通じて学生への周知方法することとした。

大項目NO	点検・評価項目(大項目)	詳細NO	点検・評価項目(詳細)	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告		
⑧	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	③	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に実施されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価の方針に照らして成績評価の分布の点検を組織的に実施していることを確認する。 ・GPA制度を実施している場合は、その目的と実施状況について確認する。 ・個人指導等が中心となる科目の場合は、成績評価の客観性を担保するための措置について確認する。 ・共同教育課程を編成する学科の場合は、構成大学を通じて一貫したものとなっていることを確認する。 ※成績評価分布についてのガイドライン（Aをクラスの30%程度とするなど）の策定や成績評価の妥当性の事後チェック（偏りの点検）、答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等について確認。 ※45時間の学習時間の確保の実態に関する調査を実施している場合には、その資料に照らして確認。 	彦根地区教育学習支援委員会による合格率や「秀・優」の割合などの点検は実施しているが、成績評価分布についてのガイドラインは策定していない。個人指導科目における客観性の確保等についての措置も十分とは言えない。	英語等の能力別クラス編成や、科目のカリキュラム体系上の位置づけなどに配慮し、到達目標を考慮した成績評価基準と整合的な成績評価分布等のガイドラインを策定する。彦根地区教育学習支援委員会による事後的な点検の範囲・内容を見直し、点検体制を整備する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	彦根地区教育学習支援委員会による合格率や「秀・優」の割合などの点検は実施された。成績評価分布について教育・学生支援機構による「ガイドライン」は示されたが、学部の特性に配慮したガイドラインの策定には至っていない。昨年度は、シラバスの改善に大幅に時間をとられたため、事後的な点検内容の見直し・整備には手をつけられなかった。		
			④	成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・成績に関する異議を受け付ける窓口が教員のみでないこと、受付後の対応の手順、様式等について確認する。 ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について確認する。 ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等）が、検証できる状況にあることを確認する。 	彦根地区教育学習支援委員会により合格率や「秀・優」の割合などの点検は実施されている。	学部に於いて、学部の特性に配慮した成績評価の分布に関するガイドラインを策定し、教育学習支援委員会において、それに基づき成績分布の点検等の手続を具体化して、これまで実施していた合格率や成績分布の点検をそれに適合するよう修正する。点検結果については、学務委員会や教授会での報告と確認を進める。また、成績評価に関する資料（解答例・採点基準等）を学生に提示している科目について把握するとともに、個人指導が中心となる科目における成績評価の客観性の担保について、「授業評価アンケート」で確認のための質問項目を設けているが、その結果の組織的な確認は実施していない。	学部において、学部の特性に配慮した成績評価の分布に関するガイドラインを策定し、教育学習支援委員会において、それに基づき成績分布の点検等の手続を具体化して、これまで実施していた合格率や成績分布の点検をそれに適合するよう修正する。点検結果については、学務委員会や教授会での報告と確認を進める。また、成績評価に関する資料（解答例・採点基準等）を学生に提示している科目について把握するとともに、個人指導が中心となる科目における成績評価の客観性の担保について、「授業評価アンケート」で確認のための質問項目を設けているが、その結果の組織的な確認は実施していない。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布について、学部の特性に配慮したガイドラインの策定には至っていないが、教育・学生支援機構の「ガイドライン」に即した「ガイドライン」と「成績評価の基準」に関しては、HPで公表した。学部の特性に配慮したガイドラインは引き続き検討を行う。 ・学部における成績評価のガイドラインを制定した上で、それに基づき教育学習支援委員会が行う成績分布の点検等の手続を具体化した「成績分布の点検等に関する要領」を定め、この要領による点検等を、令和元年度秋学期分のデータを用いて試行した。点検（試行）結果は、執行部による確認の上で教授会に提示し組織的な確認を行った。 ・成績評価に関する資料（解答例・採点基準等）を学生に提示している科目について把握するために、教員に対する調査を行った。【3月16日現在未実施。3月末までに実施予定】 ・学習時間の確保について確認する「授業評価アンケート」の質問項目について、試行として令和元年度春学期・秋学期分のデータを用いて教育学習支援委員会で検証の上、教授会で報告して結果を共有するとともに、アンケート自体の内容や分析手法に関する問題点を洗い出し、組織的な確認を継続して行う作業体制を整えた。
			⑤	卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果を踏まえて、学習成果を確認する。 ・学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっていることを確認する。 	卒業予定者アンケートの内容が、大学の目的・ディプロマポリシーに則した学習成果について調査するのに十分とは言えない。	教育学習支援委員会においてアンケート内容の見直しを行う。	令和元年度卒業予定者アンケートについて、その結果報告においてディプロマポリシーと関連づけた分析を行い、教授会で報告の上で「令和2年度FD事業報告書」に掲載した。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度卒業予定者アンケートについて、アンケート内容を見直し、ディプロマポリシーに即した学習成果についてより詳細に確認できるよう質問内容を改めた上で実施した（結果集計は未了）。
⑥	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	③	卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果を踏まえて、学習成果を確認する。 ・学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっていることを確認する。 	卒業予定者アンケートの内容が、大学の目的・ディプロマポリシーに則した学習成果について調査するのに十分とは言えない。	教育学習支援委員会においてアンケート内容の見直しを行う。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度卒業予定者アンケートについて、その結果報告においてディプロマポリシーと関連づけた分析を行い、教授会で報告の上で「令和2年度FD事業報告書」に掲載した。 ・令和2年度卒業予定者アンケートについて、アンケート内容を見直し、ディプロマポリシーに即した学習成果についてより詳細に確認できるよう質問内容を改めた上で実施した（結果集計は未了）。 		

ウ.点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（データサイエンス学部）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告	
④	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	④1	教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・教育課程方針において、点検・評価項目（詳細）本文の①から③の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。	カリキュラム・ポリシーにおいて、③学習成果の評価の方針の記述が不十分。	カリキュラム・ポリシーへの③学習成果の評価の方針への記載の明確かつ具体的な記述を含めたカリキュラム・ポリシーの修正を年度内に行う。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	2020年1月23日のDS学部学務委員会において改善計画に沿ったカリキュラム・ポリシーの修正を検討し、2020年1月30日のDS学部教授会において承認され、改定を実施した。	
			④2	教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	・教育課程の編成及び実施の内容が、学位授与方針に定める獲得が期待される能力を学生が獲得できるものとなっているかを確認する。	学習成果の評価の方針が明示されていること及びディプロマ・ポリシーとの整合性がとれていることについて確認が必要である。	学習成果の評価の方針が明示されていること及びディプロマ・ポリシーとの整合性がとれていることについて、学部教授会において確認を実施し、必要に応じて改正を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日の教授会でガイドラインに基づきカリキュラム・ポリシーの確認を行い、修正の必要がないことを確認した。
			④3	教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	・教育課程の編成及び実施の内容が、学位授与方針に定める獲得が期待される能力を学生が獲得できるものとなっているかを確認する。	ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの整合性が不十分。	ディプロマ・ポリシーについても、カリキュラム・ポリシーとの整合性の確保するように年度内に修正を行う。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	2020年1月23日のDS学部学務委員会において改善計画に沿ったカリキュラム・ポリシーの修正を検討し、2020年1月30日のDS学部教授会において承認された。これにより、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を確保した。
⑤	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	⑤2	授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	・一単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成する原則を踏まえ、科目の内容が設定されていることを確認する。 ※次の場合は、科目の内容がふさわしい水準になっているものとする。 ・信頼できる分野別第三者評価機関によって保証されている場合 ・日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが機関別内部質保証において保証されている場合 ・シラバスを検証することによって、45時間の学習時間が必要であることを確認できる場合 ・自己点検・評価において水準に関する検証を大学等の目的に則したその他の方法によって実施し、検証されている場合	2016年8月に文部科学省からデータサイエンス学部の設置審査にて許可を得、外部アドバイザーボードにより授業科目の内容に助言を得た。さらに、日本学術会議による参照基準及び統計教育連携ネットワークによる参照基準をもとに授業科目の内容を作成しているところであるが、シラバスの一部で記述に不十分な点がある。	データサイエンス学部の全シラバスを年度内に改善を行い、授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となるものとする。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	2020年3月にDS学部シラバスの全シラバスを学務委員会で検討し、シラバスが改善計画に沿ったものとなるよう修正した。	
⑥	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	⑥3	適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。 ・芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されていることを確認する。 ・すべてのシラバスが、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。 ・授業形態（講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス）、学習指導法（少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等）の工夫を積極的に行っている場合は、その状況についても確認する。	シラバスにおける授業形態、学習指導法等の記載について、一部不十分な点が見られる。	カリキュラムの見直しを行うワーキンググループを立ち上げ、その中でシラバスの項目の点検も行う。シラバスには、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習について具体的な指示の記入を徹底する（令和元年度内）。	シラバスのチェックを担当する彦根地区教育学習支援委員会の規程について、毎学期シラバスの組織的な点検を実施することを具体的に記載する。シラバスの組織的な確認手順書（チェックリストなど）を作成する。以上2点について、教授会において確認を実施し、対応を行う。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	2019年12月19日のDS学部教授会にてシラバスの見直し・具体的な記入の指示を行い、2020年3月にDS学部の全シラバスにおいて、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習について具体的な指示がされているか学務委員で点検を行った。
			⑥4	適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。 ・芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されていることを確認する。 ・すべてのシラバスが、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。 ・授業形態（講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス）、学習指導法（少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等）の工夫を積極的に行っている場合は、その状況についても確認する。	シラバスの適切性をチェックする体制が整備されていることの確認が必要である。	シラバスのチェックを担当する彦根地区教育学習支援委員会の規程について、毎学期シラバスの組織的な点検を実施することを具体的に記載する。シラバスの組織的な確認手順書（チェックリストなど）を作成する。以上2点について、教授会において確認を実施し、対応を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日付けで彦根地区教育学習支援委員会規程を改正し、シラバスの点検及び改善が同委員会の任務であることを明文化した。また、シラバス点検のためのチェックリストを作成した。シラバス作成要領に具体的な注意事項を記載して周知を行った。彦根地区教育学習支援委員会及びデータサイエンス学部学務委員会がシラバスの点検を行い、結果は各教員にフィードバックされた。また、シラバス作成要領に過去の修正事例を反映させる等、改善に向けた取り組みを行った。これらの一連の取り組みによって、チェック体制の継続的・組織的な運営を担保した。

ウ.点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（データサイエンス学部）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
⑦	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること	⑦1	学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	・ガイダンス、担任制、学習成果の状況の組織的把握と対応、学習計画の指導、能力別クラス分け、基礎学力不足の学生に対する指導、助言が行われていることを確認する。 ・授業科目への学術の発展動向（担当教員の研究成果を含む。）の反映、他学部の授業科目の履修、編入学や秋期入学への配慮、修士（博士前期）課程教育との連携、国内外の他大学との単位互換・交換留学制度の実施、ダブル・ディグリー制度の導入等の取組を積極的に進めている場合は、その状況についても確認する。	1学年と2学年ではプレゼン論の教員がチューターとして、3学年からはゼミの教員が、それぞれ履修指導を行う体制を取っているが、学生のニーズに把握や対応について不十分な点がある。	専門科目の領域ごとに、科目間調整会議を年度内に開催し、学生のニーズに応える履修指導の体制を整える。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	3年次への進級判定を控えた2年生を対象に全学生の成績を学務委員会として把握し、成績不振者には個別に履修指導、助言を行った。
		⑦3	社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	・インターンシップ等の実施状況を確認する。 ・その他教育課程の目的に応じた取組を確認する。 【教育学部のみ】 ・教職を主とした就職支援事業、キャリア形成支援事業について点検を行う。	インターンシップに参加する学生数を底上げする余地があると思われ、また、一部の企業に対して学生からの参加申込みがないところが生じている。	学生のインターンシップの参加意欲を年度内に把握する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	前年度までと同様、インターンシップの説明会などを実施し、多数の学生がインターンシップに参加したほか、海外への派遣も行った。学生のインターンシップへの参加意欲を高めるため、インターンシップへ参加した学生による成果報告会を2年生向けに実施した。
⑧	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	⑧1	成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	・成績評価基準については、評語（A、B、C等）を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定めたものを確認する。 ※成績評価基準は、教育課程方針に明記されていることも想定される。 ※学習成果の評価の方針は別途確認。	シラバスにおいて、成績評価基準の明示が不十分。	到達目標を考慮したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則したより具体的な成績評価基準について年度内に組織として定める。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	2020年3月にDS学部シラバスの全シラバスを学務委員会で検討し、シラバスにおける成績評価基準が明確となるよう修正した。
		⑧2	成績評価基準を学生に周知していること	・学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。	配布掲載を行い周知している成績評価基準の明示が不十分。	シラバスへの基準明示を十分なものとして、ウェブサイトなどへの配布掲載を行う（令和元年度内）。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	2020年3月にDS学部シラバスの全シラバスを学務委員会で検討し、シラバスにおける成績評価基準が明確となるよう修正した。
		⑧3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	・学習成果の評価の方針に照らして成績評価の分布の点検を組織的に実施していることを確認する。 ・GPA制度を実施している場合は、その目的と実施状況について確認する。 ・個人指導等が中心となる科目の場合は、成績評価の客観性を担保するための措置について確認する。 ・共同教育課程を編成する学科の場合は、構成大学を通じて一貫したものとなっていることを確認する。 ※成績評価分布についてのガイドライン（Aをクラスの30%程度とするなど）の策定や成績評価の妥当性の事後チェック（偏りの点検）、答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等について確認。 ※45時間の学習時間の確保の実態に関する調査を実施している場合には、その資料に照らして確認。	成績評価の分布の点検や成績評価分布についてのガイドラインの策定に関する組織的な取り組みが十分ではない。	成績評価分布について組織的な点検を実施し、成績評価のガイドラインの策定を行う（令和元年度内）。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	教育・学生支援機構会議により成績評価に関するガイドラインが作成された。
		⑧4	成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	・成績に関する異議を受け付ける窓口が教員のみでないこと、受付後の対応の手順、様式等について確認する。 ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について確認する。 ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等）が、検証できる状況にあることを確認する。	成績に対する異議申し立てに組織として対応する制度となっていることの確認が必要である。	本学部において成績照会制度に関する要項を定め、教授会において確認を実施し、成績照会制度の運用方法、手続き等を規定する。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日付けで「滋賀大学データサイエンス学部における成績照会制度に関する要項」を制定し、成績照会制度の運用方法及び手続等を定めた。申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について教授会で確認を実施した。成績評価の根拠となる資料の保管について定め、授業ハンドブックに掲載して教員に周知した。以上により、本制度が確立された手続に則って安定的に運営され、十分な効果を伴って機能していることが裏づけられた。

ウ.点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（データサイエンス学部）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
⑩	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	①	標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 学部、研究科等ごとの標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率を算出し確認する。 大学等の目的及び学位授与方針に則した資格の取得者数を確認する（卒業が受験資格となるものは必須）。 大学院課程においては、研究活動の実績の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであることを確認する。 	現在の学部には3年生までが在籍するため、学部、研究科等ごとの標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率は、2021年度以降に可能になる。統計検定2級、情報処理技術者試験、社会調査士の資格取得状況が明確でない。	2021年度以降に、学部、研究科等ごとの標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率を算出するためのデータを収集する。また、年度内に統計検定2級、情報処理技術者試験、社会調査士の資格取得状況を調査し、資格の取得者数について、級ごとでまとめた資料を年度内に作成する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	統計検定2級、社会調査士について資格取得状況を明確化した。その他の資格については対応中である。
					まだ卒業生を出していないため、卒業率の算出は2021年度以降可能となる。情報処理技術者試験の取得率が明確でない。	2021年度以降に卒業率を算出するためのデータを収集する。年度内に情報処理技術者試験の資格取得状況を調査する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	情報処理技術者試験の取得状況を調査した。
		⑤	就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 就職先等の関係者からの意見聴取等の結果を踏まえて、学習成果を確認する。 	R2年度末に初めて卒業生を輩出したことから、R2年度末現在、就職先からの意見聴取は未実施。	R3年度以降、就職先に対してアンケートを行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	就職先アンケートは4年に1回実施することを実施要項で定めているため、令和6年度までに実施する。令和3年度は就職先アンケートを実施していない。令和4年度の実施を検討している。
					R2年度末に初めて卒業生を輩出したことから、R2年度末現在、就職先からの意見聴取は未実施。	R3年度以降、就職先に対してアンケートを行う。	R4	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和4年度に就職先に対してアンケートを実施した。これにより大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていることを確認した。アンケート結果は、令和5年度FD事業報告書に掲載する予定。

エ. 点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（データサイエンス研究科）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
④	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	④1	教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・教育課程方針において、点検・評価項目（詳細）本文の①から③の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。	カリキュラム・ポリシーにおいて、③学習成果の評価の方針の記述が不十分。	カリキュラム・ポリシーへの③学習成果の評価の方針への記載の充実について、検討を進めている（令和3年4月改正目途）。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	カリキュラムポリシーへ学修成果の評価の方針を明示した。
					学習成果の評価の方針が明示されていること及びディプロマ・ポリシーとの整合性がとれていることについて確認が必要である。	学習成果の評価の方針が明示されていること及びディプロマ・ポリシーとの整合性がとれていることについて、本研究科学務委員会において確認を実施し、必要に応じて改正を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日の研究科委員会において、学修成果の評価方針を明示し、ディプロマ・ポリシーとの整合性を持たせるため、カリキュラム・ポリシーを改定した。
⑤	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	⑤4	大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導の基本方針や考え方を確認する。 ・指導体制を整備し、それに基づく指導が実施（研究倫理に関する教育・指導を含む）されていることを確認する。 ・複数教員による指導体制、研究テーマ決定に対する指導、年間研究指導計画の作成・活用、中間発表会の開催、国内外の学会への参加促進、他大学や産業界との連携、T A・R Aとしての活動を通じた教育・研究能力の育成等、教育の目的や研究指導の基本方針等に照らして、研究指導に対する取組が行われていることを確認する。 ※学位論文に代えて、特定課題研究を課している場合は同様に確認する。 ※研究指導体制と論文指導体制が異なる場合は、それぞれの体制も確認する。 	大学院課程において、研究指導計画を明示した上で指導していることがわかる資料が必要である。	研究科規程実施要項を改正し、研究指導計画の明示について明記する。研究計画書の提出方法について、本研究科学務委員会で審議し、手順を定める。また、研究計画書様式、スケジュールについて、今回の実施要項改正に合わせ、一部修正を行う。以上について、研究科委員会において確認を実施し、対応を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	大学院データサイエンス研究科規程実施要項を改正し、研究指導の方法に関して研究指導計画を作成して学生に明示したうえで指導することを追記した。また、データサイエンス研究科学務委員会において具体的な手順及びスケジュールについて定めた。「研究指導計画の作成について」の手順に従い、指導教員が研究指導計画を記載した研究計画書を令和4年5月2日を期限として、学務課に学生全員から提出があった。
					2018年9月にデータサイエンス研究科修士課程、2019年9月にデータサイエンス研究科博士後期課程の設置審査にて文部科学省から許可を得、シラバスを作成しているところであるが、シラバスの一部で記述に不十分な点がある。	成績評価基準や準備学習などについて、より具体的に記載する。（令和3年4月改正目途）。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	シラバス上の成績評価基準や準備学習などについて、より具体的に記載することとした。
⑥	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	⑥3	適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。 ・芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されていることを確認する。 ・すべてのシラバスが、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。 ・授業形態（講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス）、学習指導法（少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等）の工夫を積極的に行っている場合は、その状況についても確認する。 	シラバスの適切性をチェックする体制が整備されていることの確認が必要である。	シラバスのチェックを担当する彦根地区教育学習支援委員会の規程について、毎学期シラバスの組織的な点検を実施することを具体的に記載する。シラバスの組織的な確認手順（チェックリストなど）を作成する。以上2点について、教授会において確認を実施し、対応を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日付けで彦根地区教育学習支援委員会規程を改正し、シラバスの点検及び改善が同委員会の任務であることを明文化した。また、シラバス点検のためのチェックリストを作成した。シラバス作成要領に具体的な注意事項を記載して周知を行った。彦根地区教育学習支援委員会及びデータサイエンス研究科学務委員会がシラバスの点検を行い、結果は各教員にフィードバックされた。また、シラバス作成要領に過去の修正事例を反映させる等、改善に向けた取り組みを行った。これらの一連の取り組みによって、チェック体制の継続的・組織的な運営を担保した。

エ. 点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（データサイエンス研究科）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
⑧	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	⑧1	成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	・成績評価基準については、評語（A、B、C等）を適用する際の科目の到達目標を考慮した判断の基準について組織として定めたものを確認する。 ※成績評価基準は、教育課程方針に明記されていることも想定される。 ※学習成果の評価の方針は別途確認。	シラバスにおいて、成績評価基準の明示が不十分。	到達目標を考慮した判断の基準について組織として定める。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	データサイエンス研究科における成績評価のガイドラインを制定した。
		⑧2	成績評価基準を学生に周知していること	・学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。	配布掲載を行い周知している成績評価基準の明示が不十分。	シラバスへの基準明示を十分なものとして、配布掲載を行う。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	学生に対して、成績評価のガイドラインを滋賀大学・学習管理システム（SULMS）に掲載し周知した。
		⑧3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	・学習成果の評価の方針に照らして成績評価の分布の点検を組織的に実施していることを確認する。 ・GPA制度を実施している場合は、その目的と実施状況について確認する。 ・個人指導等が中心となる科目の場合は、成績評価の客観性を担保するための措置について確認する。 ・共同教育課程を編成する学科の場合は、構成大学を通じて一貫したものとなっていることを確認する。 ※成績評価分布についてのガイドライン（Aをクラスの30%程度とするなど）の策定や成績評価の妥当性の事後チェック（偏りの点検）、答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等について確認。 ※45時間の学習時間の確保の実態に関する調査を実施している場合には、その資料に照らして確認。	成績評価の分布の点検や成績評価分布についてのガイドラインの策定に関する組織的な取り組みが十分ではない。	成績評価分布についてのガイドラインの策定を行う。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	成績評価の分布の点検を行う具体的な仕組みを導入した。
		⑧4	成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	・成績に関する異議を受け付ける窓口が教員のみでないこと、受付後の対応の手順、様式等について確認する。 ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について確認する。 ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等）が、検証できる状況にあることを確認する。	成績に対する異議申し立てに組織として対応する制度となっていることの確認が必要である。	本研究科において成績照会制度に関する要項を定め、研究科委員会において確認を実施し、成績照会制度の運用方法、手続き等を規定する。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和3年11月18日付で「滋賀大学大学院データサイエンス研究科における成績照会制度に関する要項」を制定し、成績照会制度の運用方法及び手続等を定めた。申立ての内容及びその対応、申立ての件数等について研究科委員会で確認を実施した。成績評価の根拠となる資料の保管について定め、授業ハンドブックに掲載して教員に周知した。 制定した成績照会制度に関する要項を「大学院データサイエンス研究科履修案内」に掲載して学生に周知するとともに、成績照会受付期間前に学生に周知した。

エ. 点検・評価項目（教育・学生支援機構担当）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況（データサイエンス研究科）

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
⑩	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	④	卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生からの意見聴取等の結果を踏まえて、学習成果を確認する。	R2年度末に初めて修了生を輩出したことから、R2年度末現在、意見聴取等は未実施。	R3年度以降、修了生に対して意見聴取を行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	修了生アンケートは4年に1回実施することを実施要項で定めているため、令和6年度までに実施する。令和3年度は修了生アンケートを実施していない。令和4年度の実施を検討している。
					R2年度末に初めて修了生を輩出したことから、R2年度末現在、意見聴取等は未実施。	R3年度以降、修了生に対して意見聴取を行う。	R4	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和4年度に修了生に対してアンケートを実施した。これにより大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていることを確認した。アンケートの回収が少ないため分析は行わずアンケート結果のみとし、令和5年度FD事業報告書に掲載する予定。
		⑤	就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	・就職先等の関係者からの意見聴取等の結果を踏まえて、学習成果を確認する。	R2年度末に初めて修了生を輩出したことから、R2年度末現在、就職先からの意見聴取は未実施。	R3年度以降、就職先に対してアンケートを行う。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	就職先アンケートは4年に1回実施することを実施要項で定めているため、今年度中に実施する。したがって、進捗状況は「対応中」を選択した。
					R2年度末に初めて修了生を輩出したことから、R2年度末現在、就職先からの意見聴取は未実施。	R3年度以降、就職先に対してアンケートを行う。	R4	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	令和4年度に就職先に対してアンケートを実施した。これにより大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていることを確認した。アンケート結果及び分析は、令和5年度FD事業報告書に掲載する予定。

2. 点検・評価項目（機構以外の全学委員会等）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況

大項目NO	点検・評価項目（大項目）	詳細NO	点検・評価項目（詳細）	分析手順	内部質保証実施主体			点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
					担当理事	担当組織	担当課					
②	管理運営のための体制が明確に規定され、機能していること	②-2	法令遵守に係る取組及び危機管理に係る取組のための体制が整備されていること	・事業者としての大学に課される法令遵守事項等への対応体制の整備状況として、責任者の役職、責任者の判断と業務遂行を支援する組織、それらの業務及び組織の根拠となる規定を確認する。 ・予期できない外的環境の変化等に対応するため、危機管理等に対応する責任者の役職、責任者の判断と業務遂行を支援する組織、それらの業務及び組織の根拠となる規定を確認する。	理事（総務・企画）		総務課	安全保障輸出管理に関する規程が未整備のため。	安全保障輸出管理に関する規程を整備する。	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	国立大学法人滋賀大学安全保障輸出管理規程を制定し、令和元年11月19日から施行した。
⑥	法令等が公表を求める事項を公表していること	⑥-1	法令等が公表を求める事項を公表していること	・大学等の目的、学位授与方針、教育課程方針及び学生受入方針、その他法令が定める教育研究活動等についての情報を社会一般に対し、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により広く公表していることを確認する。	理事（総務・企画）		広報課	教育情報について、いずれが法令で求める情報であるのか、わかりやすい形で公表されていない。また、自己点検及び評価の結果について、法令で求める形でわかりやすく公表されていない。一部教員の学位及び業績について公表されていない。	教育情報、自己点検及び評価の結果について、法令で求める情報をわかりやすく整理し、大学ホームページで公表する。教員の学位及び業績について公表されるように教員情報管理システムへの入力を促す。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	教育情報の公表について、「学校教育法施行規則第172条の2に係る教育情報の公表」のページを新たに作成し、法令で求める情報をわかりやすく整理・公表した。教員の学位及び業績について、教員情報管理システムへの入力を引き続き促している。
⑧	学生受入方針が明確に定められていること	⑧-1	学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること	・学生受入方針において、以下の各項目に係る記述が含まれていることを確認する。 ・求める学生像については、入学前に学習しておくことが期待される内容 ・入学者選抜の基本方針については、入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか ・特に学士課程については、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」についてどのような成果を求めるか）	副学長（入試）	入学試験委員会	入試課	「求める人材像」のみ明示されており、「入学者の選抜方針」が確認できない。（経済学研究科、データサイエンス研究科 ※いずれも博士前期課程・博士後期課程）	「入学者の選抜方針」を経済学研究科、データサイエンス研究科において次年度（令和4年度入学者選抜）より明示する。	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()	「入学者の選抜方針」を経済学研究科、データサイエンス研究科において次年度（令和4年度入学者選抜）より明示するよう見直しをすすめた。（※令和3年4月以降に対応済）

2. 点検・評価項目（機構以外の全学委員会等）に係る昨年度（R4）改善計画の進捗状況

大項目NO	点検・評価項目(大項目)	詳細NO	点検・評価項目(詳細)	分析手順	内部質保証実施主体			点検結果が△または×の場合、その理由	改善計画	確認年度	進捗状況	進捗状況報告
					担当理事	担当組織	担当課					
⑩	実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること	⑩-1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集を行う組織単位ごとの過去5年間の入学定員に対する実入学者の割合の平均を確認する。 ・学部又は研究科の単位において、実入学者数が「入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る」状況になっている場合は、その適正化を図る取組がなされていることを確認する。 ※実入学者数には、秋期入学者のほか、国費留学生や外国政府派遣留学生等の入学者を含める。 ※学生募集を行う組織単位ごとの過去5年間の入学定員に対する実入学者の割合の平均に関しては、適切な教育環境を確保する観点重視し、「1.3倍以上」、又は「0.7倍未満」の場合は、「大幅に超える」、又は「大幅に下回る」とする。 	副学長（入試）	入学試験委員会	入試課	経済学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、特別支援教育専攻科において「0.7倍未満」であり「大幅に下回る」	志願者増、入学者増を図るため、広報活動等を見直しの方策を検討する	R1	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	経済学研究科において大学院改革検討ワーキンググループを立ち上げ、カリキュラム改革の検討を実施中である。博士前期課程においては2022年度から新カリキュラムに移行予定である。特に、社会人1年制（ビジネス・データサイエンス専修プログラム）の導入を目指す。博士後期課程においては3ポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の見直しを図る。特別支援教育専攻科においてはホームページの見直しを行う。
								経済学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、特別支援教育専攻科において「0.7倍未満」であり「大幅に下回る」	志願者増、入学者増を図るため、カリキュラム、広報活動等を見直しの方策を検討する	R2	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	経済学研究科において、カリキュラム改革の検討をすすめるとともに、博士前期課程および博士後期課程のアドミッションポリシーの見直しを行った。特別支援教育専攻科においては、ホームページの見直しを行った。また、志願者増を図るため、今後、現職教員派遣増について滋賀県教育委員会に折衝するとともに、社会福祉施設等、特別支援教育に関わりのある施設等に募集を促す。
								経済学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、特別支援教育専攻科において「0.7倍未満」であり「大幅に下回る」。	志願者増、入学者増を図るため、カリキュラム改革を行い、広報活動等を見直しの方策を検討する。	R3	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	経済学研究科（博士前期課程）については、①オンライン入学説明会の回数増加（年4回開催）、②大学院受験予備校への入学案内・入試要項の送付、③陵水会・経済経営研究所のSNSによる情報提供を行い、広報活動を強化した。また、受験生と指導希望教員とのミスマッチ解消策を検討中である。さらに、博士前期課程については、3月にオンラインでの追加入試を実施し、未入国留學生の受験機会と入学可能性を担保した。博士後期課程については、4名の入学があり（合格者は6名）、定員充足状況についてやや改善傾向がみられる。特別支援教育専攻科において、志願者増を図るため、今後、現職教員派遣増について滋賀県教育委員会に折衝するとともに、社会福祉施設等、特別支援教育に関わりのある施設等に募集を促す。
								経済学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、特別支援教育専攻科において「0.7倍未満」であり「大幅に下回る」。	志願者増、入学者増を図るため、カリキュラム改革を行い、広報活動等を見直しの方策を検討する。	R4	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	経済学研究科（博士前期課程）については、①前年度に引き続き、入試説明会の回数の増加、入試案内の動画の配信などで本研究科の広報活動を充実した。②受験生と指導希望教員とのミスマッチ解消策の一環として、「研究テーマ及び著作リスト」のフォーマットを改訂し、指導可能なテーマなどの情報を追加した。③受験生の便益を図るため、HPの入試情報の改修、会計学などのサンプル問題の公開などを行った。博士後期課程については、4名の入学があり、現状定員充足に問題はない。特別支援教育専攻科において、志願者増を図るため、現職教員の派遣増について滋賀県教育委員会に折衝した。今後現職教員派遣増について滋賀県教育委員会に折衝するとともに、社会福祉施設等、特別支援教育に関わりのある施設等に募集を促す。